

平成 21 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社アパマンショップホールディングス
(コード番号8889 大証ヘラクレス)
代 表 者 代表取締役社長 大村 浩次
本 社 所 在 東京都中央区京橋一丁目1番5号
問 合 せ 先 常務取締役 石川 雅浩
T E L 03 - 3231 - 8020

当社子会社(株式会社AS-SZKi)の業績予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社であります株式会社AS-SZKi(JASDAQ コード 1995)が、平成 22 年3月期連結累計期間並びに通期業績予想について、平成 21 年5月 20 日に公表しました業績予想を別添資料のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

なお、当社の平成21年9月期通期連結業績への影響については現在集計中ではありますが、今後業績予想の修正が必要と判断される場合には速やかにお知らせいたします。

以 上

<別添資料>

株式会社AS-SZKiの開示資料

「業績予想の修正に関するお知らせ」

各 位

上場会社名	株式会社 AS-SZKi
代表者	代表取締役社長 千葉 慎二
(コード番号)	1995)
問合せ先責任者	専務取締役 木下 義治
(TEL)	055-971-3040)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月20日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,000	△20	△100	△110	△2.17
今回発表予想(B)	3,587	352	236	219	4.34
増減額(B-A)	587	372	336	329	
増減率(%)	19.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	3,382	△1,480	△1,663	△2,631	△51.99

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,500	250	150	120	2.37
今回発表予想(B)	6,620	420	230	190	3.75
増減額(B-A)	120	170	80	70	
増減率(%)	1.8	68.0	53.3	58.3	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	7,970	△1,822	△2,123	△3,179	△62.82

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,100	△170	△100	△110	△2.17
今回発表予想(B)	2,295	△127	△51	△52	△1.03
増減額(B-A)	195	43	49	58	
増減率(%)	9.3	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	1,993	△1,065	△1,022	△1,677	△33.14

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,500	10	120	110	2.17
今回発表予想(B)	4,270	△310	△170	△175	△3.46
増減額(B-A)	△230	△320	△290	△285	
増減率(%)	△5.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	5,193	△1,510	△1,384	△2,717	△53.69

修正の理由

【第2 四半期連結累計期間連結業績予想】

1.連結売上高につきましては、主としてアセットマネジメント事業において計画しておりました一部の連結子会社の非連結化が関係者間の調整に時間を要したことでずれ込み、当該連結子会社の家賃収入等の増加に加え、建設事業においては期中に受注した工事の進行が計画よりも増えたことによる売上高の増加もあり、前回予想3,000百万円が587百万円増加し3,587百万円となる見込みであります。

2.連結営業利益につきましては、主として前述の理由によりアセットマネジメント事業の売上総利益が340百万円増加する見込みとなったこと、さらには販売費及び一般管理費の削減により、前回予想20百万円の損失が372百万円改善し352百万円の利益となる見込みであります。

3.連結経常利益につきましては、計画しておりました一部の連結子会社の非連結化のずれ込みにより営業外費用が増加する見込みとなりましたが、主として上記2.の理由により営業利益が増加したため、前回予想100百万円の損失が336百万円改善し236百万円の利益となる見込みであります。

4.連結四半期純利益につきましては、主として上記2.及び3.の理由により前回予想110百万円の損失が329百万円改善し219百万円の利益となる見込みであります。

【通期連結業績予想】

1.連結売上高につきましては、当事業年度の早期に実現することを計画しておりました一部の連結子会社の非連結化が関係者間の調整に時間を要したこととずれ込み、当該連結子会社の家賃収入が増加するため、アセットマネジメント事業では350百万円の増加が見込まれますが、市場の低迷等の影響を受け、第2四半期までの受注高が計画を未達したこと等により建設事業、開発・PI事業の売上高が合計230百万円減少することが見込まれるため、前回予想6,500百万円が120百万円増加し6,620百万円となる見込みであります。

2.連結営業利益につきましては、主として1.の理由により建設事業及び開発・PI事業の売上高の減少により売上総利益が240百万円減少する見込みである一方、アセットマネジメント事業の売上高の増加により売上総利益が330百万円増加する見込みであり、販売費及び一般管理費の削減などと合わせて、前回予想250百万円が170百万円増加し420百万円になる見込みであります。

3.連結経常利益につきましては、計画しておりました一部の連結子会社の非連結化のずれ込みによる営業外費用の増加が見込まれる一方で、主として2.の理由による営業利益の増加があり、前回予想150百万円が80百万円増加し230百万円となる見込みであります。

4.連結当期純利益につきましては、主として2.及び3.の理由により、前回予想120百万円が70百万円増加し190百万円となる見込みであります。

【第2 四半期累計期間個別業績予想】

1.売上高につきましては、主として建設事業において期中に受注した工事の進行が計画よりも増えたことにより売上高が増加し、前回予想2,100百万円が195百万円増加し2,295百万円となる見込みであります。

2.営業利益につきましては、国外所有の販売用不動産の為替変動による評価減30百万円を計上したため売上総利益が減少いたしました。1.の理由による建設事業の売上高の増加に伴う売上総利益の増加と、アセットマネジメント売上総利益の増加に加え、販売費及び一般管理費の削減により前回予想170百万円の損失が43百万円改善し127百万円の損失となる見込みであります。

3.経常利益につきましては、主として2.の理由により、前回予想100百万円の損失が49百万円改善し51百万円の損失となる見込みであります。

4.四半期純利益につきましては、主として上記2.及び3.の理由により、前回予想110百万円の損失が58百万円改善し52百万円の損失となる見込みであります。

【通期個別業績予想】

1.売上高につきましては、主として不動産業界において市況の低迷による取引の停滞と取引価格の低下が予想され、開発・PI事業の売上高が50百万円減少する見込みとなり、また、今期見込んでいた新規ファンドの組成等によるアセットマネジメント報酬が200百万円減少することが見込まれること等により、前回予想4,500百万円が230百万円減少し4,270百万円となる見込みであります。

2.営業利益につきましては、主として建設事業における厳しい受注環境による利益率の低下と、不動産取引の停滞による取引価格の低下やアセットマネジメント報酬の減少により、売上総利益が385百万円減少し、経費の見直しにより販売費及び一般管理費が減少するものの、前回予想10百万円の利益が320百万円減少し310百万円の損失となる見込みであります。

3.経常利益につきましては、2.の理由に加え営業外収益の増加もあり、前回予想120百万円の利益が290百万円減少し170百万円の損失となる見込みであります。

4.当期純利益につきましては、2.及び3.の理由により、前回予想110百万円の利益が285百万円減少し175百万円の損失となる見込みであります。

※上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

以上